

## 令和元年度第1回国立大学法人鹿屋体育大学学長選考会議議事要旨

日 時 令和元年6月24日（月） 14：30～15：00

場 所 【鹿屋会場】鹿屋体育大学事務局2階 大会議室  
【東京会場】東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター2階 多目的室1

出席者 泉、上治、小舘、宮嶋、荻田、金高、国重、濱田(幸二)、前田(明)、山田、森(司朗)、石田の各委員

欠席者 岩切、中西の各委員

陪席者 岩重監事

### 議 事

#### 1 前回議事要旨確認

原案のとおり確認した。

#### 2 報告事項

##### (1) 学長の業務執行状況の確認のスケジュールについて

事務局から、資料3に基づき、今年度の学長の業務執行状況の確認のスケジュールについて報告があった。

#### 3 議 題

##### (1) 次期学長選考のスケジュールについて

初めに、事務局から、資料4-1～4-3に基づき説明があった後、次期学長選考のスケジュールについて以下のとおり意見交換を行った。

<意見>

- 現学長が1年早期に退任することは可能か。
- 現学長の任期は既に決まっているが、この学長選考会議で任期を変更する議論を行うことは可能である。
- 1年前に次期学長が決定した場合、学外者であれば企画室会議にどのような立場で関わっていくのか。
- 学外者が次期学長に選考された場合、企画室会議に関与できることを学長選考会議で了承すればよいのではないか。
- 学長の任期と運用については、別に分けて議論する必要がある。
- 次期学長の任期のみを5年にすることはできるのか。そうであれば、次々回からは中期目標・中期計画の策定に関与できるのではないか。
- 任期を1年ずらした場合、最初の策定には関われるが、最後の実績報告に関われないので、責任が持てないのではないか。
- 次期学長が就任する10か月前には文科省に素案を提出しなければならないので、学長の任期とは別に、粛々と進めていき、現学長が要望したように企画室会議に次期学長に関与してもらうことで、現学長の思いを反映したものになるのではないか。

- 現学長と次期学長が中期目標・中期計画策定に一緒に関わる場合、次期学長が大胆な改革案を策定したい場合には、意見を言いにくいのではないかと。
- 企画室会議を開催する時点では、次期学長は、まだ実務に携わっていないので、どれだけ素案に意見を反映できるのか。どこまで実情の把握をすることができるのか難しい。
- 学長に立候補する場合は、現在の大学の方針を十分把握した上で立候補をするので、現学長の意向を反映した中期目標・中期計画をさらに進化させたり、もしくは変えていきたいということを、立候補する段階で学長選考会議でプレゼンテーションを行うことで判断できるのではないかと。
- 学長には中期目標・中期計画期間の最後の年度まで責任をもっていただきたい。また、次期学長が大胆な計画を策定したい場合は、企画室会議での現学長の関与をなるべく少なくするようなルールを作ればよいのではないかと。その両方がうまく結びつく、このスケジュール案が両立できるのではないかと。

以上の意見を踏まえて、議長から、今後、任期と運用については、運用を中心に検討していくこと、企画室会議における次期学長の具体的な関与について検討していくことを課題に加えてスケジュール案を進めていくこととし、継続審議とすることとした。

(2) その他  
なし